

総務企画部の取り組み

8 働きがいも  
経済成長も



TARGET 8-5



FULL EMPLOYMENT  
AND DECENT WORK  
WITH EQUAL PAY

どんな  
SDGs?

8-5  
全てのの人に、  
働く喜びと  
正当な対価を

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

わたしたちの  
SDGsアクション!

岡山県環境保全事業団とSDGsの  
関わりをより具体的に知って頂くために、  
SDGsターゲット※1での取り組みをご紹介します

※1 2030年に向けた17のゴールを達成するために、  
より具体的に示された169の目標。



インタビューー  
総務企画部 部長  
つくたにあつし  
築谷淳志さん



お話を伺ったのは

近況

総務企画部 主任

まつもと ようへい

松本 洋平さん

担当業務: 人事労務

趣味: 溪流釣り・洋邦ロックミュージック鑑賞

肝臓を労わろうとしじみ  
サプリを飲み始めました  
お酒がいくらでも呑める  
ので困っています

松本.. そうですね.. 私の役割は  
全て、社員の皆さんの困りごとを  
解決することだと捉えていますので、  
多くの「ありがと」を集めること  
が私のやりがいです。異動前に総務  
に対して感じていた「こうあってほ  
しい」という想いを反映しようと、  
なるべく迅速に、分かりやすく誠  
実に対応しようと心掛けています。

若い世代がやりがいを感ぜられる職場であり続けるために、  
意見を柔軟に取り入れられる窓口として役割を果たしたい

やりがいをもち、働き続けられる  
環境整備でSDGsへ貢献したい

築谷.. 松本さんは総務企画部で4  
年目になります。業務内容も安全  
衛生、労務管理、採用活動と多岐に  
渡りますが、どんなことにやりが  
いを感じていますか。

築谷.. 職員アンケートでは、事業団の  
業務とSDGsの関わりを強く感じて  
いる職員が多いようですが、具体的に  
SDGsにどう取り組むかが理解し  
にくい部分もあると思います。松本さ  
んは、今回テーマとする「職員の働く  
喜び」についてSDGsと自分自身の  
関わりをどのように捉えていますか。

松本.. 私が担当する業務の一つに採  
用があります。新卒採用は事業団の  
将来を担う若者が対象で、近年は、  
自分を成長させてくれる組織で  
働きたい、仕事を通じて社会に貢  
献したい、と考える学生が増えてい  
ます。就職が「ゴール」ではなく、事業  
団で働き続けることでSDGsに  
貢献していきたいと思ってもらえ  
るように私も伝えていきたいと考  
えています。また、やりがいを得るに  
はやりたい仕事とのミスマッチを  
生じさせないことも大切であ  
り、事業団の良い面も悪い面も率  
直に伝えるよう努めています。

築谷.. なるほど。では、職員の皆さ  
んがやりがいを持って長く働き  
続けられるよう、工夫をしている  
ことはありますか。

松本.. やりがいを持って働き続け  
ることは、心と体の健康があつて  
こそです。そのため、事故等を未然



新規採用では、多岐にわたる事業団の仕事について、  
食い違いないように学生に伝えられるよう気を付けている

に防ぐための安全・衛生管理と、健  
康経営に取り組んでいます。昨年  
度は「健康経営優良法人」認定を  
取得し、今年度からは体重や歩  
数などの記録によってポイントが  
貯められる、スマホアプリを導入し  
ました。職員の健康への意識改善が  
少しずつ進んでいると感じます。

メンタルヘルス面では、20代〜70  
代の、幅広い世代がいる中で、世代  
間ギャップがストレスに繋がらな  
いよう工夫しています。とかく若い  
世代の方が上の世代に意見を合わ  
せることになりがちなので、私が  
そこに風を通す窓口として、社内  
の「安全衛生委員会」などでも若い  
職員の意見を参考に、計画を作る  
ようにしています。

若い世代の意見を取り入れる  
窓口としての役割を果たしたい



経済産業省が推進する、職員  
の健康管理を経営的な視点  
で取り組む企業を認定する  
「健康経営優良法人」を取得。

築谷.. 最後に、今後どんなこと  
に取り組んでいきたいかを聞かせて  
ください。

松本.. やはり若い人のやりがいを  
高めていく仕事だと思います。自分  
が仕事を通じて社会に貢献でき  
た、と実感できる経験を一つでも多  
くしてほしいです。これから入団  
してくるZ世代の若者は、学生  
時代からSDGsを学んできた  
「SDGsネイティブ世代」と呼ば  
れています。彼らの意見を柔軟に  
取り入れられるよう、私が窓口と  
しての役割を果たしたいです。  
また、今後は外部から講師を招く  
ことが多い社内研修の講師を、  
自分も務めたいと思っています。  
私が経験してきたことを若い世  
代に伝えて、楽しみながら学ん  
でもらえるような研修を企画して  
みたいですね。